

# 1人1台端末の活用による実践事例

(特別支援学校)

学校名	岡山県立 倉敷まきび支援学校	実践者名	高木 凌、高山 麗未
実践場面	朝の会・帰りの会 等		
単元・題材名	「司会をしよう」 「健康観察をしよう」		
学習目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日直の役割を理解し、自分で iPad を操作しながら朝の会・帰りの会の進行をすることができる。</li> <li>・健康観察係として、朝の会でクラスの友達の健康観察をすることができる。</li> </ul>		
対象の児童 生徒の実態	小学部3年生児童 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発声はあるものの、不明瞭なことが多い。</li> <li>・文字を読むことができ、簡単な iPad の操作ができる。</li> </ul> 小学部6年生児童 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音が不明瞭なため、相手に伝わりにくいことがある。</li> <li>・係の仕事に意欲的でないときが時々ある。</li> </ul>		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
使用アプリ…「Drops Talk」 	 		
<b>「朝の会の司会をしよう」小学部3年生児童</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めぐりとともに Drop Talk を操作し、「次は、日付天気です。〇〇先生お願いします。」と、発信をしている。</li> </ul>	成果・・・一人で意欲的に司会の進行をすることができるようになった。 周りの児童も Drop Talk の音声に注目し、朝の会に集中することができていた。		
<b>「健康観察をしよう」小学部6年生児童</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「元気ですか?」「よかったです。」等、自分の言葉が録音されており、ボタンを押すと発信される。</li> </ul>			
成果・・・「係の仕事の道具」として積極的に使おうとしており、意欲的に係の仕事に取り組むようになった。			
活用のポイント・改善策等			
<b>Drops Talk を使う利点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録されている Drops イラストシンボルや、その場でカメラアプリで撮影した写真を使ってボタンの作成ができる。Drop のイラストには音声が入元から登録されており、改めて録音する必要がなく、すぐに使うことができる。</li> <li>・一台に複数のボードを作成できるため、「朝の会」「給食」等、様々な場面に活用を般化することができる。</li> <li>・一人一台あることで、児童に合わせたオリジナルのボタンを作成することができる。</li> </ul>			
<b>今後の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PECS のツールとして利用の幅を広げていきたい。要求内容だけでなく、「誰に」「何を」等、写真や言葉を必要に応じて追加・修正し、学年・学部が上がっても、どんな相手にも安心して使えるコミュニケーションツールとなるよう、利用をすすめていきたい。</li> </ul>			